

事務事業評価シート(平成19年度実績分)

(1) 事務事業の名称・位置づけ【Plan1】

白色のセルのみ入力してください。(コメントを見ながら入力)

事務事業コード	事務事業名	担当課	担当係名	所属長(課長等)名	担当者係長名
08203	埋蔵文化財整理活用事業	教育委員会	文化係	白鳥義政	向山 光
		一次評価年月日	平成 20 年 7 月 30 日	連絡先[内線]	2505
事務事業実施の根拠・位置づけ	予算における位置づけ (会計区分・事業コード・事業名)	会計区分		事業コード	
		<input checked="" type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> 特別		1068	埋蔵文化財発掘事業
	第四次総合計画後期基本計画の施策体系における位置づけ	章	(コード選択)	5章	まなび合う社会の創造
		節	(コード選択)	3節	伝統文化を活かし地域文化を創造する
		項[基本施策]	(コード選択)	531	文化遺産の保護と伝承
		主な取り組み	(コード選択)	5315	埋蔵文化財の整理活用(埋蔵文化財報告書・埋文調査報告書刊行)
関連する計画等への位置づけ	<input checked="" type="checkbox"/> 第四次行財政改革大綱	<input checked="" type="checkbox"/> 3ヶ年実施計画	<input checked="" type="checkbox"/> 主要業務報告	<input type="checkbox"/> その他	
事務期間	(開始)	年度 ~ (終了予定)	年度	<input checked="" type="checkbox"/> 開始時期不明	<input checked="" type="checkbox"/> 終期設定なし

(2) 事務事業の内容(目的と手段を把握します。【Plan2】

①対象(～に対して)……この事務事業はどんな人(誰・何)を対象に行っていますか。

国民、将来を担う子どもたち

②目的(意図)(～という状態にするために)……この事務事業のサービスを提供することによって対象をどういう状態にしたいのですか。

埋蔵文化財の発掘調査を行い、史料(遺構・遺物等)を保存整理し、将来の人々に対して記録を残す。

③手段(事業内容)(～を行う)……上記①の対象に対して、どのような手段で②の目的(意図)を達成するか、事業の実施内容(サービスの概要)を記入します。

- これまで発掘した遺跡の遺構図面・遺物整理、実測、作図、説明・考察原稿の作成。
- 埋蔵文化財報告書・埋文調査報告書の刊行。
- 展示公開による情報の提供。
-

(3) 活動指標の設定と推移……(2)の③サービスの概要(手段)の指標を表します。【Do1】

区分	単位	実績値		計画値		最終目標年度			
		18年度	19年度	20年度(見込み)	21年度(見込み)	22年度	年度(見込み)		
①	指標名	遺構図面・遺物実測、作図作業		時間	5,185	5,387	5,263	5,200	5,500
	説明	遺構図面・遺物実測、作図作業延べ時間		目標値設定の根拠	遺すべき記録の作成作業に係る時間数				
②	指標名	報告書の刊行、展示公開		件	0	1	1	1	1
	説明	報告書の刊行、展示公開遺跡件数		目標値設定の根拠	情報の提供機会の件数				

(4) 成果指標の設定と推移……(2)の②目標(意図)の達成度を指標で表します。【Do2】

区分	単位	実績値		計画値		最終目標年度			
		18年度	19年度	20年度(見込み)	21年度(見込み)	22年度	年度(見込み)		
①	指標名	遺構図面・遺物実測、作図作業		枚	680	1,670	1,700	1,700	1,700
	説明	遺構図面・遺物実測、作図作業終了枚数		目標値設定の根拠	実施年度からの推計				
②	指標名	報告書の配付		冊	0	200	300	300	300
	説明	報告書の配付総数		目標値設定の根拠	情報の提供を多くの人、広い範囲で提供すること				

(5) 総事業費(コスト)の推移【Do3】

※事業費の算定方法

決算書・予算書等に記載の数字

按分計算による算定

○総事業費(コスト概算)	=①+②	(千円)	7,920	20,800	23,058	25,250															
対前年比		%		262.6	110.9	109.5															
A) その他の財源(国庫支出金・県支出金・地方債・分担金・使用料・雑収入など)																					
B) 一般財源(税金)																					
①事業費		(千円)	2,787	15,543	17,808	20,000															
対前年比		%		557.7	114.6	112.3															
②人件費の概算		(千円)	5,133	5,257	5,250	5,250															
対前年比		%		102.4	99.9	100															
	課長	課長補佐	係長	一般職員	延べ人数	年間人件費	年間人件費	年間人件費	年間人件費												
	H19	H20	H21	H19	H20	H21	H19	H20	H21	H18	H19	H20	H21								
町職員(正規職員)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.83	0.84	0.84	0.83	0.83	0.84	0.84	5,133	5,257	5,250	5,250	
臨時職員	人数及び人件費の算出は別シートで計算となっています。(人件費計算式)シート										0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0	0	0	0

指標化

(6) 項目別評価 [Check]

視点	項目別評価	判定	評価結果
必要性	1. 事業のニーズに変化はありますか	B	A 増加傾向にある B 変化していない C 減少傾向にある D かなり減少している
	2. 町(行政)が関与する必要性がありますか	A	A 町が主体となる必要がある B 町以外の主体で実施できるが町の関与は必要 C 町も関与するが関与の度合いを縮小できる D 町の関与のあり方を再検討する
目的妥当性	3. 対象の設定は妥当ですか	A	A 対象は現在の設定が妥当である B 対象の変更の余地がある → []
	4. 目的(意図)の設定は妥当ですか	A	A 目的(意図)は明確で上位の施策に合致している B 目的(意図)は上位の施策に合致していない点がある → []
有効性	5. 期待された成果は得られましたか(成果指標の目標値への達成度)	A	A 期待したとおりの成果があった B 概ね期待したとおりの成果があった C 期待したほどの成果が得られなかった → [] D 成果が少なく今後も向上する見込みがない → []
	6. 連携可能な事務事業はありますか(町以外の取り組みも含めて)	C	A すでに実施している B 今後は可能性がある → [] C 今後可能性はない
効率性	7. 成果を下げずにコスト(事業費・人件費)を削減できますか	A	A 余地なし B 当面は余地なし C 一部余地あり → [] D かなり余地あり → []
公平性	8. 受益者負担は適切ですか	A	A 検討の余地なし B 当面検討の余地なし C 一部検討の余地あり → [] D かなり検討の余地あり → []
その他	9. 現在の事業内容(サービス)に対して、対象の声やニーズを把握していますか	A	A アンケートなど具体的な方法で把握している B 日常業務の中で把握している → [] C 把握していない

(7) 改革改善 [Action]

今後の方向性(上記評価結果をもとに今後の方向性を記入します。) を一つチェックしてください。

- ア. 現状のまま継続する
 イ. 見直しのうえで継続する
 ウ. 終期設定
 エ. 廃止
 オ. 休止

〈今後の展開方針〉(イを選択した場合のみを一つチェックしてください)

- a 重点化する(コストを集中的に投入する等)
 b やり方を改善する(実施主体や実施の手段を変える)
 c 効率化を図る(コストを下げる)
 d 縮小する(簡素化する)
 e その他(別事務事業に統合する等)

(ウ・エ・オを選択した場合のみ記入してください)

時期(年度) []

事業改善の経過

(事業改善をした内容と実施時期を記入します。)

事業の方向性の具体化

(誰が、何を、いつまでに、どうするか(5W1H)等の改革改善案を記入します。)

20年度予算見積書への反映 あり なし

[反映内容]

(8) 所属長 所見 (事務事業の総合評価及び今後の方向性について)

(評価事務事業の責任者の意見として、総合的な評価に関する所見を記入します。)

上位の施策の推進に貢献していますか。 をチェック

発掘調査報告書の作成を着実に進めているが、量が膨大なため計画的に地道な作業に頼るしかない

- A. 貢献度 大 D. 上位施策なし
 B. 貢献度 中
 C. 貢献度 小

(今後の方向性 を一つチェックしてください。)

- ア. 現状維持
 イ. 見直しのうえで継続する
 ウ. 終期設定
 エ. 廃止
 オ. 休止



上記 a~e を選択